

金沢地方気象台長からのメッセージ

みなさん、こんにちは。金沢地方気象台長の木津と申します。
本日は金沢地方気象台のホームページをご覧いただき、ありがとうございます。

さて、皆さんにとって気象台とはどのような存在でしょうか？
今日は傘が必要だろうか、上着は着ていったほうが良いかな、など生活に密着した気象情報を提供している役所といったところででしょうか。

もちろん気象台は 100 年以上も前から金沢市内で地道に気温や気圧、風向・風速といった気象データを観測・収集していますし、さらに輪島ではラジオゾンデという観測機器を使って上空 30km 程度までの気象観測をしています。それらデータも含め、世界中で一斉に観測された気象データや衛星、航空機、レーダーといったありとあらゆる観測結果を基に正確な天気予報を皆さんに届けるのも気象台の大切な役割です。

ところで皆さん、最近のニュース等で、気象災害が多くなってきたと感じていませんか？

2019 年 9 月には立て続けに台風が日本に上陸し、特に台風 19 号では北陸新幹線が水没するなどの災害が発生し、2020 年 7 月には九州から中部地方にかけて集中豪雨が発生し、多数の大きな被害が出たなど、記憶に新しいと思います。

これらの災害、そしてこれから起こりうる災害に対して、気象台はこれまでの気象情報だけではなく、「今、どれだけ危険な状況にさらされているのか」をいち早く皆さんに伝えるため、HP や自治体などに能動的に危機感を伝えるという取り組みを行っています。さらにこれらの情報を発表したときには、瞬時にご自身が理解でき、どのように行動すればよいかを判断で

きるよう、平時には気象・防災の講習会などを通じて、気象災害による人的被害が最小になるよう取り組んでおります。

一方で台風や大雨が過ぎ去った後、災害情報が過大に発表されたのではないか、と思われたことがあるかもしれません。

我々気象台職員が皆さんの生命と財産を守るために、今ある最新の技術と情報を駆使して出した気象防災情報だったはずですが、そのように感じられた時には、気象台からは最悪の事態を想定した予測結果であり、非常に高い可能性で災害が発生し得る状況だと御理解頂ければと思います。なお皆さんに提供する気象予測技術は日々進歩しておりますので、一步一步ではありますが確実に精度は向上しております。

今後とも、県や市町などの防災関係機関や報道機関等との連携を継続・強化し、皆さんに寄り添った、分かりやすい気象・防災情報を提供していきますので、引き続き、金沢地方気象台をどうぞよろしくお願ひいたします。

令和3年4月



金沢地方気象台長 木津暢彦

きづのぶひこ